あと、もう一つ、この部分で、先ほど石井さんの方から、振興局、あんまり寄らないんじゃないかという話もありましたけれども、我々、普及センターは非常に重要だなということも感じております。うちのところ、実際、加工所造るに当たっても、ほかのいろいろな情報におきましても、やはり普及センターからの情報が信頼性も高く、専業農家にとっては、経営のレベルの向上、また質の高い指導が受けられるということからすると非常に重要なセクションじゃないかなというふうに思っています。そういう面でも専業農家を増やす、そういう経営体を増やすということからすれば、そういうサポートする部分も大いに充実を図っていただいて、後継者育成、担い手育成をしていただければというふうに思っているところであります。以上です。

■佐藤

どうもありがとうございました。

討論が白熱をしてくると、残念ながら時間がないというのが今までの経過ですし、今日もそういう経過をたどっていることを非常に残念に思っています。

それで、ここで皆さん方からたくさんの発言をいただけばよろしいんですが、予定している時刻になりましたので、打ち切らざるを得ません。ただ、もうミーティングがあるということを早くから知られて、事務局の方へ、一人だけこういう質問をしたいんだという手を挙げておられた方がおいでです。伊藤國夫さん、おいでですでございますか。どうぞひとつ簡潔に。

伊藤 ■フロアー質問・意見４

塩津潟教育研究者の伊藤です。

私は、農家に生まれました。農業高校を出ています。大学も農学部に４年間関係しておりまして、農業問題で非常に心を痛めているのは、減反問題なんですね。全国の農家の方は非常に心を痛めていると思うんです。青田刈りという、生きているものを殺すわけですが、あれほど大きな犠牲を払ってまで農家は生き延びているわけですね。それらに対して、やっぱり学校教育の現場では、赤谷小学校では、カルガモ農業というので、小学校の時代からやっている。敬和学園大学では、学生が環境問題の農業をどうすればいいかというのを研究しています。新潟大学の関係の方々は、新潟市の政令指定都市の問題で非常なアイデアと実践を提案しておりますが、そういうことを、やはりこの問題のところにどんどん取り入れていくべきだと思うんですね。

私は、減反問題を何とか農業の原点に立ち戻らせるための新潟アピールするためにいい材料じゃないかと思うんですね。先ほど寺嶋さんが、県民盛り上げてとか、新潟をアピールするためというのは若い知事さんにとっては非常にいいタイミングだと思うんですね。

どうすればいいかというと、新発田市の減反分を無から有を生ずるというのが農業ですので、その部分を全部、ここにも書いてありますが、被災地の復興、復旧のためにというところですが、何しろ新発田で生産できる減反分のお米は全部10年間山古志に送るとか、そのものはもう向こうで現物を売ろうが、実際使おうが、何しろこれから中越地震の方々は大変な生活が続くと思うんです。それらをあきらめているんじゃなくて、国が決めたからと言って、法律は法律ですけれども、しょせん人間が決めたことですので、米と言えば新潟、新潟と言えば米の県にもかかわらず、減反は今年も増えていると思うんですね。その増えた部分を新潟市は川口町とか、阿賀野市は、小千谷市とかということで、さっき地産地消という話がありましたけれども、新潟県の米は、まず新潟県民を守るというか、育てるというか、生きることを続けさせるということに私は英断を振るってもらいたいんですね。

阪神淡路震災のときのリーダーの説明を聞いていると、超法規的なことをやらなきゃ復興はで

きないということを経験者が断言していますので、知事さんはなってばっかりですぐ地震が来たわけですので、これはいいタイミングだというので、是非新潟の米は被災地に全部送る。そのためには何年間かは減反を免除してくれというような声をあげてほしいんですね。私は、できないことはないと思うんです。このことを言いたいために小千谷まで行ったんですけどね。小千谷もこのタウンミーティング、いっぱい発言者があって発言しないまま帰ってきたんですけど、私は新発田では新発田農業もあるし、紫雲寺町、加治川村は合併することによってほとんど農家の方々が多いわけですので、新潟市の政令指定都市と同じになるわけですから、是非何とかあきらめないで英断振るってほしいんですが、県知事さん、よろしくお願いします。いかがでしょうか。

■佐藤

知事さん、お答え願います。

■知事

生産数量割当というのはけしからぬと思っているんですよ。なぜかというと、量だけでしょう。作っちゃいかぬという話なわけで、ここは計画経済の国かと思うぐらい。それも地元でコントロールできないわけですよ。霞ヶ関で全部決めるという形になっているわけで、全く実態を無視した話だろうと思っています。声はあげていきたいと思います。

ただ、声をあげるだけでは実現しないんで、いろんな工夫をしながら対策を立てていかないといかぬなと。これは生産数量目標の、今年、数量的に言えばちょうどぴったりぐらいで生産できるんですけども、新潟の米は売れる米なんですよね。売れる米なのに、売れないところにも数量を割り当てて、消費者が欲しいという米を作っちゃいかぬというのは一体何を考えているんだと。これは自由と平等というのが一つ民主主義の根幹だとすると、過剰平等重視主義ということだと思うんです。平等を重視すると各県ごとに平等にやりましょうということで、ちょっと自由にやる方はへこんでくださいということになるんだと思うんですよね。

ただ、どうして生産数量割当をするかというと、買い付け保証をしているからだとか、お金が絡んでくるからそういうことになっているわけで、お金の方を保証しないところについては自由にやってくださいよというのがあっても本当はいいんだろうと思っています。もう少し理論武装をして、なるほどと納得してもらえるような形、これは生産地側だけではなくて、消費者の声、これも大きく取り上げてもらえるような形でちょっといろいろ運動というか、頑張っていきたいというふうに思います。

伊藤■フロアー質問・意見４

うちの研究所では、きのうまでこのセンターで新発田藩の新田開発のイベントをやったんですよ。６万石が10万石くらいまで藩主は新田を開発して食料増産に努めていたわけですね。今、新発田市は食農教育とか、食育教育をやっているわけですので、私らができる歴史的な背景からもバックアップしているわけですので、何とかお願い申し上げます。

■知事

はい、頑張ります。

■佐藤

どうもありがとうございました。

それでは、予定しておりました時間をちょっとオーバーしてしまいましたが、ここでディスカッション全体を踏まえての御感想を知事さんからまとめとしてお願いを申し上げます。